

第33回復興推進委員会議事要旨

1 日時：令和元年12月9日（月）14：30～16：00

2 場所：中央合同庁舎4号館4階 共用第2特別会議室

3 出席委員：

伊藤委員長、秋池委員長代理、岩淵委員、内堀委員、大山委員、白根委員、白波瀬委員、達増委員、中田（俊）委員、松本委員、村井委員、若菜委員

4 議事要旨：

（1）「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針（案）

「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針（案）について、復興庁から説明があった。

（2）意見交換

岩手県（達増知事）からは、「復興・創生期間後における復興の基本方針について」、宮城県（村井知事）からは、「復興・創生期間後を見据えた課題と取組等について」、福島県（内堀知事）からは、「復興・創生期間後のふくしま復興・創生に向けて」について、報告・意見があった。

続いて、委員からは、次のような意見があった。

○現在の災害は普遍的なものであって、震災の経験を次の災害のケアに生かしていく仕組み作りが重要。今後については、次の被災の予防につなげるよう、この5年間で、新たな仕組みをつくるようにすべきと思う。

○農業支援のため、大規模な農業経営ができるよう、農地を大規模な形で借り入れできるような形で進めてほしい。

○心のケアは専門家が必要であり、専門家養成とリンクする形で予算があるとよい。また、国際教育研究拠点は、博士人材を有効利用するという点でもポテンシャルが高く、具体的に進めていただきたい。

○NPOと連携を深めることが資料1に記載されていることに感謝している。先月、今後の復興支援についてのフォーラムに参加したが、東北3県以外でも防災意識が高く、教えられた点があった。今後とも、日本全国で学び合っていく、助け合っていくというつながりが重要。

○防災と復興の有機的連携を図ることが、将来に向けて一番重要と思う。そして、様々な点で継続して検証することが必要と思う。防災力の向上についても、今後、防災と復興の連携の中で、初動に関する情報共有を行うことが、継続的な事業として出てくる。また、伝承については教育をどうしていくかというロングスパンで見ること非常に重要と思う。

○組織について、福島復興局は、引き続き富岡町と浪江町に支所を維持し、新たに今度は岩手と宮城の復興局を、現場主義の徹底のために、より沿岸域に変更することに感謝しているが、これは決定事項か。未定の場合は、いつごろに決まる予定なのか

○（復興庁より）まだ決まったわけではなく、この方向感を出して、1年数ヶ月の間に、事業の進捗度合いや地元の被災自治体の御意見を聞いて、今後決めていくことになろうかと思う。

○現場の声を確実に、国の行く方向につなげていくためには、現地の復興局に権限を持たせて活用していくことが重要と思う。

○教訓の後世への継承について、今後、防災教育をどのくらい国内に展開していくのか、もう少し具体的に触れたほうがいいのではないかと。平和教育と同じくらいのレベルで、防災教育を展開していかなければならないという感覚を持っている。

○コミュニティの形成支援は、とても重要と思うので、具体的に進んでいくようにしてほしい。また、防災について、マニュアルや施設見学だけではなくて、ある程度自分で考えて、動かないとわからないことがある。そういったものが全国に広まっていくようにできないか。

○新しい東北の取組によりつくられたものを買って食べたりして、よくここまで戻ってきたと実感する一方、事務方は大変だったと思う。その苦労の上に、さらに先導的な新しい東北のバージョン2を次の5年、10年で展開していくことが重要と思う。また、ダイバーシティやマイノリティーに対し、どれだけ援助体制ができているかというのが、防災研究の政界のトレンド。そうした先導的な取組も並行して進められれば良い。

（3）有識者からのヒアリング

南三陸ホテル観洋女将の阿部 憲子 氏よりヒアリングを行い、質疑、意見交換を行った。